

# パリ・オペラ座のエトワールやバレエ伴奏者、日本人コレペティや指導者など豪華10名のインタビューを掲載!



美しき音楽に合わせ流麗に舞うバレエ・ダンサーたち—観る者を魅了する華やかな舞台からはその存在すら感じることはできないが、ダンスと音楽という別々の芸術形態を繋ぐ極めて重要な役割を果たしているのが、バレエ伴奏者である。

今でこそ“バレエ・ピアニスト”専門クラスを設ける音楽大学も増えその存在が知られるようになってきたが、19世紀以前のバレエ伴奏は“弦楽器”で行われていた事実を知る人は少ない。職業として成立しはじめた19世紀パリ・オペラ座のバレエ伴奏者たちの活動や役割などを明らかにしながら歴史を辿り、“影の立役者”バレエ伴奏者に光を当てる。

## 目次

- 序
- ・ドガ、ダンス、オペラ座でのデッサン
  - ・バレエ教師と楽器奏者
  - ・ありふれた日常風景?
  - ・バレエ伴奏者を取り巻く歴史の謎

### —Partie 1—

- 第1章 オペラ座とバレエの歴史
- ▼1870-1920年 オペラ座やパリで上演された代表的なバレエ作品一覧
  - ◎Column: パリ・オペラ座バレエ団 バレエ・ピアニストの仕事 —ミシェル・ディートランさんに聞く
- 第2章 バレエ教師は伴奏者
- 19世紀前半までの場合と音楽
  - [実例その1] ジャック=シャルル・ジョリイ
  - [実例その2] ミシェル・サン=レオン
  - ◎Column: 踊る側にとつてのバレエ伴奏者 —バレエ講師、ダンサーに聞く
  - ・アンドレイ・クレムさん (パリ・オペラ座バレエ団 バレエ教師)
  - ・マチアス・エイマンさん (パリ・オペラ座バレエ団 エトワール)
- 第3章 認められた副業
- 19世紀後半のバレエ伴奏者たち
  - [実例その3] ギュスターヴ・コロング
  - ・バレエ伴奏者になるには?
  - ・勤務スケジュール
  - ・報酬額
  - ・例外としてのオフィシャルな副業

- 第4章 弦楽器かピアノか
- 《二羽の鳩》の稽古伴奏をめぐる
  - ◎Column: なぜかバレエ曲に多い弦楽器ソロ —二人の弦楽器奏者に聞く
  - ・近藤薫さん (東京フィルハーモニー交響楽団 コンサートマスター)
  - ・須藤三千代さん (東京フィルハーモニー交響楽団 ヴィオラ首席奏者)
- 第5章 最後の弦楽器伴奏者、最初のピアノ伴奏者
- [実例その4] ボール=サンタムール・ビエレ
  - [実例その5] フィデル・クーニグ
  - [実例その6] アルフレッド・バシュレ
  - ◎第1部 (Partie 1) のまとめ: パリのバレエの舞台裏
- Partie 2—
- 第6章 バレエ公演のつくりかた
- 新国立劇場バレエ団の場合
  - ・上演準備から初日の幕が開くまで —伊東信行さん (チーフ・プロデューサー)
  - ・バレエ公演への道のり —米沢唯さん (プリンシパル・ダンサー)
- 第7章 「バレエ・ピアニスト」の仕事
- バレエ・ピアニストの仕事—滝澤志野さん (ウィーン国立歌劇場バレエ団 専属ピアニスト)
  - バレエ・ピアニスト育成について —稲葉智子さん (バレエ・ピアニスト、指導者)
  - ◎Column: フランスにおけるバレエ・ピアニスト育成
  - ・パリ国立高等音楽・舞踊学校 舞踊伴奏科の場合 —松岡優さん (バレエ・ピアニスト) に聞く
- あとがき  
▼用語集 ▼参考文献

## プロフィール

永井 玉藻 (ナガイ タマモ)

パリ第4大学博士課程修了、博士 (音楽学)。専門は19~20世紀のフランス音楽。2012年度フランス政府給費生。現在、慶應義塾大学、白百合女子大学、桐朋学園大学ほか非常勤講師。主な著書・論文に「19世紀後半のパリ・オペラ座におけるバレエ伴奏者—フランス国立文書館及びオペラ座図書館の資料に見る実態—」(『音楽学』第63巻2号、2018年)、『《悪魔のロベール》とパリ・オペラ座19世紀グランド・オペラ研究』(共著、上智大学出版、2019年)など。



## キリトリ線

◎ご注文は、この用紙を切り取り書店・楽器店にお持ちください。またはネット書店でもご購入頂けます。

(貴店名・帳合)	注文数	年 月 日
	冊	<b>バレエ伴奏者の歴史</b> 19世紀パリ・オペラ座と現代、舞台裏で働く人々 永井 玉藻 著
		四六判・並製・224頁 定価2420円(本体2200円+税10%) 【ISBN】978-4-276-25034-5
	ご住所 〒	
	お名前	お電話番号